

岐阜地域における電子工作教室を通じた科学の啓発活動

岐阜大学 電子工作同好会
加藤 暢高（指導代表者 成瀬 有二）

現在の日本は急速な高齢化に伴う労働人口の減少の中、従来の単なる改良や大量生産に頼るのではない、革新的な技術革新・高付加価値製品の創造に貢献できる人材の育成が急務とされている。このため、各地で科学の啓蒙活動が行われるようになってきている。

自身が趣味とするアマチュア無線ではこのような取り組みとして、2005年（平成17年）愛・地球博以来子供を対象として工作教室などを行ってきた。今回は主に岐阜県加茂郡七宗町において、次の活動を行った。

（1）子供向けの工作教室の開催

平成28年8月7日（日）に加茂郡七宗町 木の国七宗コミュニティーセンターではんだ付けを含む工作教室を開催した。今回は小学校高学年を対象にAMラジオを製作した。全員完成し、作ることの喜びを分かち合った。



工作教室の様子

（2）モールス通信の紹介

通信の黎明期を担った通信方法である電信通信も現在ではアマチュア無線の中で残るのみとなった。電信通信の役割の大きさを顕彰するため、現在、モールス通信について産業遺産への登録を目指して広く活動している。平成28年11月27日（日）同じ木の国七宗コミュ

ニティセンターにおいてモールス通信の紹介と宣伝を行った。



モールス符号の紹介の様子

(3) 中京大学八事キャンパスでのワークショップ

平成 28 年 12 月 11 日(日)に中京大学八事キャンパスにおいて、岐阜大学・中京大学・中部大学学生が集い、新人研修と今年度のまとめを兼ねてワークショップを開催・参加した。

以上、今回の活動報告であるが、今後ともこの活動を継続していく予定である。

さらに開催した中から今後の課題として大人向け、特に女性向けの教室が必要であることを強く認識させられた。なぜなら、目の前で実際に実験を行う、いわゆる演示実験を行うと子供よりも大人の方が興味を持ってもらえ、反応もよい。これは、中学や高校で理系の科目を難しいと挫折した経験から、科学や工学を毛嫌いしてしまっている大人、とくに女性が多い傾向があるのかもしれない。しかし、そのような人でも適切な手法によって科学に対する興味を引き出すことが可能であることを示唆している。大人が興味を持っていないものについては子供が興味を持つきっかけは生まれないことから、この点についてさらに活動を広げていきたいと考えている。